

## 「父なる神の約束」(要旨)

聖書箇所：使徒 1:7-8

### 【1】 聖霊は人が考える「時」に支配されない

弟子たちは、理想の「イスラエル」の姿を夢見、それが実現するタイミングをイエスに問いました(使徒 1:6)。イエスはその問いに対して、「いつとか、どんな時とかいうことは、あなたがたの知るところではありません」(7)と突き放しました。「いつ」は時一般、「どんな時」は特別な局面(時)を意味します(BDAG)。

人は自分でどうにもできない「時」を、自分で操縦したいと考えて思い煩います(マタイ 6:25-34)。イエスは、今も、そして将来も、「時」を定めておられるのは父なる神であると語られました。

### 【2】 聖霊は力を与える

主イエスは「聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます」と語られました。イエスを証する「力」は上より注がれるのです。

ペテロとヨハネに着目しましょう。

「彼らはペテロとヨハネの大胆さを見、また二人が無学な普通の人であるのを知って驚いた。また、二人がイエスとともにいたのだということも分かってきた…彼らが祈り終わると、集まっていた場所が揺れ動き、一同は聖霊に満たされ、神のことばを大胆に語り出した。」(使徒 4:13,31)

ペテロとヨハネは「普通の人」でした。聖霊が彼らを「神のことば」を語るものとししました。次にインテリとして名高いパウロの自己認識はどうだったのでしょうか。

「私のことばと私の宣教は、説得力のある知恵のことばによるものではなく、御霊と御力の現れによるものでした。」(1コリント2:4)

彼も「御霊と御力の現れによる」と、自分の知恵を誇ることはありませんでした。ヨ

ハネ、ペテロ、そしてパウロ。彼らは聖霊の助けによって大胆にイエスを証しました。

### 【3】 聖霊はキリストを指し示す

聖霊は、人々にキリストを指し示します。ペンテコステの日、イエスの証人となったペテロの説教の終盤に着目しましょう。

「…ですから、イスラエルの全家は、このことをはっきりと知らなければなりません。神が今や主ともキリストともされたこのイエスを、あなたがたは十字架につけたのです」(2:36)。

集まった人々は冷やかし半分に話を聞いていました。ところが、聖霊がみことばを通して働かれ、聞く者の「心を刺した」のです。それで人々は「…私たちはどうしたらよいのでしょうか」(37)と救いを求めました。

### 【4】 聖霊の働きは国境、人種、民族を越える

聖霊の働きは人の想定する範囲を越えます。弟子たちは「聖霊によるバプテスマ」(5)の話聞き、真っ先に国の再興を思い浮かべました。それに対しイエスは「あなたがたは…地の果てまで、わたしの証人となります」(8)と答えました。その通りになりました。二つの事例を紹介しましょう。

ピリポのエチオピア人の授洗(使徒 8:26-38)、パウロのマケドニア宣教(使徒 16:6-10)です。この二つは、ピリポとパウロにとって想定外のものでした。聖霊は、人々の考えや思いでは敬遠したくなるような導きを与えることがあります。同時に聖霊の導きに応じるときに、神のご計画の確かさを間近で経験することができるのです。

「かつては私が聖霊を用いようとし、いまは聖霊が私を用いてくださる」(オズワルド・J・スミス『聖霊の満たし』)

